

IAUD Newsletter vol.16 第1号(2023年4月号)目次

1. IAUD 創立 20 周年記念特集 未来への提言①古瀬理事長特別寄稿…………… 1
2. UD 検定オンライン 第 29 回初級及び第 18 回中級開催のご案内…………… 5
3. IAUD 2023 年 4 月の予定…………… 6



20 年間の UD 普及活動成果を世界へ発信

IAUD 創立 20 周年記念特集 未来への提言①古瀬理事長特別寄稿



IAUD 創立の契機となった国際 UD 会議 2002 の様子

日本で最大最古の UD 推進団体である IAUD は、2023 年 11 月 28 日で創立 20 周年を迎えます。これも、IAUD の創立と発展にご尽力賜りました関係者の皆様、並びに日々の活動にご参加いただきました会員の皆様のご支援とご協力の賜物です。

IAUD はこの 20 年間で取り組んできた事業を今後も責任をもって続けるとともに、これまでの成果と実績を世界に向けてしっかりと発信し、日本発の UD をより一層広めてまいります。

創立 20 周年を迎えるにあたり、Newsletter では今号より「創立 20 周年記念特集 未来への提言」を連載いたします。

1 回目は、創立の経緯を振り返る古瀬敏理事長の特別寄稿を掲載します。



古瀬理事長

UD のさらなる普及と実現が必要

IAUD を創立することになったきっかけは、2002 年 11 月に横浜で開催された日本で初めての UD をテーマにした国際会議「国際ユニバーサルデザイン会議 2002」です。

それより前、1998 年 6 月に米国ニューヨークのホフストラ大学で「第 1 回 UD 国際会議:21 世紀のためのデザイン」が開催されました。

日本からはわたしや現 IAUD 専務理事の川原啓嗣などの専門家、多くの企業デザイナーなどが参加しました。この会議には、UD の概念を提唱し「UD の父」と言われるロン・メイス氏も参加しています。

そのころまでは、ふつうのデザイン以外にデザインがやるべきことは障害者対応であると考えていた人が多かったので、「いやそうではない、できるだけ多くの人が使えらるデザインの UDこそが必要」という主張が強く打ち出されていた会議の場において、日本からの参加者が受けたインパクトは非常に大きかったといえます。

それまではさほど考えたことがなかったけれど、とくに急速に高齢化が進展しつつある日本のほうが、他の参加先進国よりもずっと問題が切実であるとの認識が共有されました。



ロン・メイス(写真左)も参加した
米国での第 1 回 UD 国際会議

UD を議論する日本初の国際会議開催へ

そこで、川原がわたしを含む数名の有志に、日本で国際会議が開催できないだろうかと声を掛けました。

川原はそれ以前から故寛仁親王殿下と親しかったことから、殿下のお口添えを得て日本の有力企業の支援をいただきました。

殿下は、以前からチェアスキーなど身体障害者のスポーツ活動を強く支援しておられましたが、障害者スポーツがふつうのスポーツとは別物として切り離されていることに違和感があったとのことで、「100%の障害者もいなければ 100%の健康人もいない。いずれは誰もが何らかのトラブルを抱えるものだ(とくに歳を取ればそれが当たり前)」と表明しておられました。

つまり、さまざまな能力低下による不利益を誰も逃れることはできない、ということをよく理解しておられたのです。殿下のメッセージは、国際会議を開催するための支援を集めるのに十分なインパクトを持ちました。

いろいろな経緯がありましたが、最終的には民間企業、デザイン関連団体に加え、中央省庁・自治体やデザイン・UD 関連団体、大学・教育機関の後援、協力も得て、名実ともに産学官による国際会議開催に至りました。

じつは後から判明したのですが、会議を設定した時期は米国の感謝祭休暇に当たっていて、だから国際会議場が空いていたわけです。日本人だけでは論文セッション司会の人数が足りないのので、海外の UD 関係者に司会を引き受けて



故寛仁親王殿下



国際 UD 会議 2002 開会式の様子

もらう代わりに参加費用の補助を申し出たところ、休暇時期を理由に参加を断った人は多くなく、ほぼ当方の期待どおりにプログラムを組むことができました。

世界 20 か国から約 4,600 名参加

「国際 UD 会議 2002」は 2002 年 11 月 30 日から 5 日間、パシフィコ横浜で開催されました。会議開催直前に高円宮殿下が薨去され、故寛仁親王殿下が服喪されたために、ご挨拶はビデオメッセージとなりました。



開会式での殿下のビデオメッセージ

「人間のために、一人一人のために暮らしの明日を考える—まち、もの、そして情報」をテーマに、国内外の UD 専門家による講演や分科会、さらには協賛企業とデザイン関連団体による

これまでの UD 成果を紹介する展示会が行われ、世界 20 か国から約 4,600 名が参加しました。

最終日には、国際 UD 宣言が採択されました。

「一人一人の人間性を尊重した社会環境づくりを UD と呼び、それを強力に推進していく。あらためて使い手と作り手の関係を再構築し、使い手中心のしくみを作るべき。そして、文化・習慣の違いを認め合いながら、真のグローバルイゼーションを模索し、UD の考え方が限りある地球資源を尊重し、持続可能な社会を築く礎とならなくてはならない」(抜粋)

今後の UD 推進の指針となるこの宣言は、今も IAUD の活動の原点になっています。

UD は超高齢社会となる日本においては、もはや啓蒙・啓発という段階ではなく、実際の製品・サービスとして実現していかなければならない段階にきていました。

そのためには、産学官のコラボレーションや業界の壁を越えた横断的な取り組みが急務であると、この国際会議で改めてその認識を深めました。



国際 UD 会議 2002 講演時の質疑応答、分科会、
歓迎レセプション時、展示会の様子(左上から時計回り)

なお、初日の公開シンポジウムで、米国からの参加者によるコメントを今でも記憶しています。

彼は成田空港から鉄道を使って横浜までたどり着いたのですが、まだ駅にエレベーターがそれほど設置されていなかった(交通バリアフリー法ができたのは 2000 年の年末で、既存の駅では設置は努力義務であった)時期であり、途中で駅員の支援を受けたと感謝した上で、次回日本に来るときには手助けを借りることなく自分だけで移動できるようになってほしい、とつけ加えたのです。

また、横浜での国際会議の後、当時 UD を積極的に進めていた岩手県からの要請があり、シンポジウムを開催するために海外からの参加者とともに盛岡市に出向きました。新幹線を使って、新横浜から東京駅乗り換えで移動したのですが、車椅子が米国標準のヘビーデューティ仕様だったため、東海道新幹線 1 号車のドアが入れずに予定の列車に乗れませんでした。

当時東京駅で唯一あった業務用エレベーターを利用したの乗り換えを考えて、新横浜で乗るのに新大阪寄りに行っていたのですが、それが裏目に出してしまったのです。その後 11 号車の位置に移動して乗り込みました。車椅子対応席が 11 号車にしかない、という状況はまだ変わっていません。

自分だけで自由に移動できることは、米国では UD という視点から当然なのですが、じつは日本では今に至っても当たり前とは受け取られていないことを残念に思います。

「国際 UD 会議 2002」の理念と成果を継承した IAUD

富士通や松下電器産業、日立製作所、東日本旅客鉄道など国際会議支援企業は、もちろん UD の重要性をよく理解していたので、国際会議終了でそのまま連携の場が消えてしまうのはもったいないとの見解から、IAUD 創立の準備が始まりました。

そして、ちょうど 1 年後の 2003 年 11 月 28 日に、「国際 UD 会議 2002」の理念と成果を継承して、任意団体として IAUD を創立することになりました。

総裁に故寛仁親王殿下、会長には富士通名誉会長の故山本卓眞氏をお迎えし、国内最大の UD 推進団体として IAUD はスタートしました。「UD の更なる普及と実現を通して、社会の健全な発展に貢献し、人類全体の福祉向上に寄与すること」を基本理念としています。

創立に向けての記者会見で、「何故ユニバーサルではなくユニヴァーサルの表記なのか」との記者からの質問には、殿下自らマイクを取られ、「私が強く要望したもの。UD で言語の壁を越えたものを作ろうというのに、“ユニバーサル”と発音していたのでは外国人に通じない。少しでもネイティブの読みに近い表記として“ユニヴァーサル”を採用した」とご説明されました。



発会式でお言葉を述べられる
故寛仁親王殿下

IAUD は国内最大最古の UD 推進団体

IAUD は任意団体としての成立の経緯から、企業が正会員となり、協会や大学などの非営利団体が準会員、それに加えて趣旨に賛同する個人会員、という構成になっています。

そして、創立以来一貫して国際的なネットワークを構築、維持することを心がけてきています。

寛仁親王殿下のご命日である2013年6月6日に、一般財団法人設立登記手続きを行い、「一般財団法人 国際ユニヴァーサルデザイン協議会」として同年6月14日に公示されました

法人格取得以降は、理事会に加えて評議員会が構成されるようになったことから、その評議員には日本国内からだけでなく海外の主要なUD関係機関の代表者にも就任を依頼することで、国際的な存在のありようを常に検証しています。

今後の課題

この20年間で、国連障害者権利条約を受けての障害者差別解消法の施行などにより、UDの重要性が高まっています。しかし、これまでの努力にもかかわらず未だに十分に実現されていません。

先に述べたように、自分一人で自由に動き回って用事が済ませられるべきで、それがどうしても無理なときに支援する手を差し伸べるのが大原則なのですが、このいちばん大切な考え方が当たり前になっていないと思います。

どうしても準備ができないので支援します、という事態は非常時以外には起こらないようになるのが私の希望なのですが、さてそうなるまでにあとどのくらいかかるのでしょうか。

UD 検 定 在宅で好きな時に UD 資格習得 UD 検定オンライン 第29回初級及び第18回中級開催のご案内

IAUDは「第29回UD検定・初級」「第18回UD検定・中級」をオンラインで開催します。

「UD検定・初級」は、UDに関する基礎的な知識を学習する講習と力試し問題、検定試験(30分・50問)のセットです。問題は全て受講した講習内容から出題されます。

「UD検定・中級」は、力試し問題と検定試験(70分・129問)を受けていただきます。試験問題は、公式テキストブック「知る、わかる、ユニヴァーサルデザイン」に準拠して出題されます。受験される方は事前に公式テキストブックをご購入し、ご自身で学習された後に試験をお受けください。

初級。中級とも合否は検定試験終了後すぐに判定され、合格者には認定証を発行します。

「第29回UD検定・初級」の申し込み受付は4月12日(水)から5月18日(木)まで、「第18回UD検定・中級」の申し込み受付は4月19日(水)までです。この機会に是非、ご利用ください。

※「第29回UD検定・初級」詳細・申し込みは近日中に [IAUD公式サイト](#)に掲載されます。

※「オンライン第1回UD検定・初級」開催報告のNewsletterは [こちら](#) をご覧ください。

※「第18回UD検定・中級」詳細・申し込みは [こちら](#) をご覧ください。

※「オンライン第1回UD検定・中級」開催掲載のNewsletterは [こちら](#) をご覧ください。



中級受験に必須の
公式テキストブック



IAUD 2023年4月の予定

月	火	水	木	金	土	日
3	4	5	6	7	1/ 8	2/ 9
10	11	12 第29回UD検定 初級申込受付	13	14	15	16
17	18	19 第18回UD検定 中級申込締切	20 15:00～ CM字幕PJ ライオン会議室	21	22	23
24	25	26	27 14:50～ 衣のUDPJ オンライン会合	28	29	30

次号は2023年5月上旬発行予定
特集：創立20周年記念特集②

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会 事務局
<http://www.iaud.net/>
 e-mail: info@iaud.net
 Instagram: [iaud.info](https://www.instagram.com/iaud.info)
 LinkedIn: international association for universal design